

全国の防災教育の分類

【主担当：神戸学院大学】

防災教育は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災以降、ずいぶんと変化をしてきた。阪神・淡路大震災以前、防災教育の代表例は避難訓練に頼る「単発訓練型」であった。しかし、行政対応の限界を超える被害を得た阪神・淡路大震災以降、災害時には自分の命を守ること（自助）、お互い助け合うこと（共助）の必要性が再認識され、防災教育は、命や助け合い、思いやりの気持ちを教え、災害の知識や助け合いの技術を学ぶ、より実践的な「総合教育型」に変化してきた。つまり、指示待ち型の防災教育から、自助(Survivorとなる防災教育)と共助(Supporterとなる防災教育)にも視点を広げ、より具体的な知識や技術を身につける総合的な防災学習にも広くとりくんでいく必要があることが認識されたためといえる。

総合的な防災教育の取り組みは全国各地ですでに始まっている。趣向を凝らした防災訓練、地域で起こった過去の災害の文献調査、インタビュー調査、防災教育教材の活用・・・など、様々な防災教育プログラムを単発で実施するのではなく、これらを組み合わせ、防災への「気づき」「発見」につながる総合的な防災学習を展開する学校、団体が増えてきている。また、工業高校生による地域の耐震診断実施、地域に津波の浸水予想看板の設置、防災運動会の実施など、地域を巻き込んだプログラムも実施されている。このように、全国的に見ると熱心な団体、地域の格差はあるが、様々な団体が防災教育にすでに取り組んでいる。

このように熱心な団体や地域が防災教育に取り組む一方、それぞれのプログラムがまだまだ全国的に認知されていない現状もある。各教育委員会では防災教育に熱心に取り組んでいるところもあるが、全国的に発信をしているところは少なく、報告書等でまとめられているに過ぎない。その中でも、防災教育をサポートする「防災教育チャレンジプラン*」のウェブサイトでは、各実践団体が行う1年間の防災教育のプログラム内容が詳細に紹介されている。また、検索画面では、防災教育のレベル、対象年齢、方式、時間数、実施主体、場所、要素を選択し、防災教育の担い手が情報を探しやすいよう構成されており、情報を収集する際には最も優れたリソースであるといっても過言ではない。一方で、「防災教育チャレンジプラン*」実施団体の1年間の取り組み後の発展的な防災教育情報が載っていないということもあり、まだまだ発展の余地があると考えられる。また、防災教育活動を表彰するしくみの「ぼうさい甲子園**」も、表彰式で各団体からの報告が行われ、報告書に各団体が実施した防災教育プログラム内容の概要が記述され、情報リソースとな

りうるが、チャレンジプランのように、事後にウェブサイトなどで検索できるシステムが導入されていないのが現状である。つまり、リソースを知っていて、実践団体にそれぞれ問い合わせるなどの労力をかければ防災教育の情報は集めることができるが、様々な教材が開発され、防災教育の実践が進む全ての情報は一元化されていないのが現状である。

防災教育開発機構では、このような問題を解決することが、防災教育の今後の推進につながり、かつ、充実につながると考え、現在日本で行われている防災教育プログラムの全体像を可能な限り表現することを試みることにした。防災教育のプログラムを整理するために、先に述べた「防災教育チャレンジプラン*」と「ぼうさい甲子園**」の応募団体が行った防災教育の実践事例から情報を得るとともに、防災教育開発教育機構構成団体メンバーが独自に保有する情報を合わせ、防災教育の分類を行うこととした。

* 「防災教育チャレンジプラン」(<http://www.bosai-study.net/top.html>) とは、全国の学校や団体で先進的に行われている防災教育の取り組みをモデルとして取り上げ、その実践を行う団体に対して支援を行うプログラムである。

** 「ぼうさい甲子園」とは、自然の脅威や生命の尊さ、共生の大切さを考える「防災教育」を推進し、全国から防災活動を募集し表彰する取り組みである。

■ 分類表の解説

分類表は、防災教育実践事例情報を防災教育開発教育機構構成団体メンバーにより「アプローチ」という切り口から、分類を行ったものである。「アプローチ」という切り口から分類を行ったのは、防災教育の担い手が防災教育を行う際に活動内容、目的が明確であり、もっともイメージしやすい分類であると考えたためである。

表では縦軸に防災教育活動を分類し、具体的な活動事例を示した。横軸には防災教育がカバーする“ハザード”“災害対応”“社会背景”“体験と教訓の語り継ぎ”といった教育内容を取り、これら4つの内容が一番強く学びとれるプログラムには◎、○をつけ、強弱を明確とした（「ハザード」とは、被害そのものを起こす自然現象への理解、「災害対応」とは災害が起こった後にどう対応するか知識や技術、「社会背景」とは災害被害を大きくも小さくもする社会そのものが持つ防災力への理解、「体験と教訓の語り継ぎ」とは、災害経験の語り継ぎを意味する）。なお、この表は、新たなプログラムが追加できるよう縦横軸のみで構成されている。

防災教育は、この4つの教育内容をカバーし、総合的に行うことが望ましいため、防災教育の担い手は、この表にあるプログラムを参考に、独自の防災教育を展開することができる。

アプローチ	形式	活動	ハザード	災害対応	社会背景	体験と教訓の語り継ぎ	
訓練・体験	・サバイバルによるアプローチ						
	自立の精神を重視した実習や訓練						
		避難訓練		◎			
		起震車体験	○	◎			
		煙体験(無害煙、水蒸気、松葉燃焼)		◎			
		簡易担架による搬送訓練		◎			
		放水訓練		◎			
		着衣水泳	○	◎			
		流水歩行訓練	○	◎			
	共助の精神を重視した実習や訓練						
		子どもの引き渡し訓練		◎			
		車いすを使った避難訓練		◎	○		
		アイマスクをつけた避難訓練		◎	○		
		高齢者疑似体験(高齢者疑似体験グッズ)		◎	○		
		妊婦体験		◎	○		
		炊き出し訓練		◎		○	
		非常食レシピ作り		◎	○		
		応急手当(AEDの使い方、心肺蘇生など)		◎			
		避難所開設訓練		◎		○	
		帰宅困難者想定訓練		◎	○		
		災害用伝言ダイヤル・安否メールの使い方体験		◎			
		119番通報の使い方体験		◎			
		消火器の使い方体験		◎			
		バケツリレー		◎			
	さまざまな訓練、体験を取り入れた複合型プログラム(総合的な学習の時間や週末、夏休みを利用)						
		サバイバル防災キャンプ		◎			
		イザ!カエルキャラバン		◎			
		避難所体験キャンプ		◎		○	
	既存のプログラムや防災教育ツールを体験して学ぶアプローチ						
	講話・講義・映画・テレビ番組等の視聴						
	災害のメカニズムに関する講義		◎				
	体験者・語り部の講話・語り合い			○	○	◎	
	救出・救助、災害支援、ボランティアなど経験の講話			○	○	◎	
	ユース震災語り部「私の語り」DVD視聴					◎	
防災関連施設などの見学(社会見学)							
	人と防災未来センター見学		○			◎	
	野島断層保存館見学		◎			◎	
	地域の防災センター見学		◎	◎			
	仁川地すべり館見学		○			◎	
	災害ジオパーク見学		◎				
	砂防ダムなどの見学		○	◎			
実験							
	ペットボトルなど身近な材料を使った液状化の実験		◎				
	家具の転倒防止実験			◎			
	小麦粉を使った火山噴火実験		◎				
	発泡スチロールでのなだれ実験		◎				
	土石流発生装置での実験		◎				
	ぶるる教材(振動実験教材)を使った実験		◎				
	汚れた水のろ過実験			◎			

	調査・インタビュー				
	地域の被災調査(歴史)			◎	◎
	被災体験聞き取り調査			○	◎
	ワークショップへの参加				
	クロスロードを使ったワークショップ			◎	◎
	DIGを使ったワークショップ			◎	○
	身近な素材を使った(空き缶コンロ)サバイバルワークショップ			◎	
	防災教育教材から学ぶ				
	幸せはこぼう	○	○	○	◎
	明日に生きる	○	○	○	◎
	防災絵本	○	○		○
	家の安全チェックシートで自宅について考える		◎		
	ゲーム教材から学ぶ				
	防災すごろく	○	○	○	○
	ぼうさいダック		◎		
DSソフトからの学習(地震DS 72時間)		○			
防災カルタ	○	○	○	○	
非常持ち出し袋を考える		◎	○	○	
成果物を作成する過程で学ぶアプローチ(作って学ぶ)					
地域への情報発信につながるものを作る					
防災マップ	◎		◎		
防災新聞	○	○	○	○	
防災紙芝居	○	○	○	○	
防災ポスターづくり	○	○	○	○	
災害(防災)カレンダー	○				
防災わらべ歌				○	
地域の海拔表示プレートづくり	◎	◎		○	
津波ジオラマづくり	◎				
水害ジオラマづくり	◎				
避難所運営プラン作成		◎	○		
校内安全調査		◎	○		
溶岩(実物)を使った火山災害啓発のグッズづくり	◎			○	
未来の防災グッズを考える		◎	○		
災害・防災を絵画で表現する		○		◎	
被災モニュメントをつくる				◎	
防災劇のストーリーを考える	○	○	○	○	
防災頭巾作り		◎			
災害用非常灯づくり		◎			
公園に置くベンチ型かまどづくり		◎			
人が学ぶための教材をつくる					
オリジナル防災劇	○	○	○	○	
防災クイズ	○	○	○	○	
防災下敷き	○	○	○	○	
人力起震車	◎				
防災すごろく	○	○	○	○	
防災カルタ	○	○	○	○	
教えながら学ぶアプローチ					
地域への発信					
地域住民向け防災セミナーの企画・実施	○	○		○	
防災劇の実施	○	○	○	○	
子ども向け防災キャンプの企画・実施		◎		○	
校内放送などでの防災番組を通じた防災情報発信	○	○	○	○	

	地域版防災カルタの制作・大会開催	○	○	○	○
異年齢間の教えあい					
	生徒・学生による防災学習の出前授業の企画・実施	○	○	○	○
	上級生からの防災劇・防災ストーリー読み聞かせなど	○	○	○	○
他の分野との連携					
福祉との連携					
	ゆりかごベルトなど高齢者向けグッズをつくる		○	◎	
	福祉防災マップづくり		○	◎	
	災害時要援護者(障害者など)との交流		○	◎	
	障害者のための避難所体験実施		◎	○	
	高齢者の安否確認訓練		◎	○	
地域との連携					
	工業高校生による地域の家屋耐震診断			◎	
	防災運動会		◎		
	防災クイズ大会・クイズラリーの企画・実施	○	○	○	○
	防災ジュニアチームを組織		◎		
	地域防災マニュアルの作成		◎	○	
環境との連携					
	サバイバル山野草リストの作成		○		
	地域にある火山から環境と防災を学ぶ	◎			○
	「自然の恵み」をテーマとした防災学習	◎		○	
被災地との連携					
	仮設住宅用の表札を作成する		○	○	
	被災地に手紙やメッセージを送る		○	○	
	仮設住宅を訪問・仮設住民との茶話会の企画・実施		○	○	○
	避難所でのラジオ体操指導		◎		
	災害時にボランティアに行く		◎		◎
	被災地のための募金活動		◎		
	被災地に明るい絵画を通してメッセージを送る		○	○	
	被災体験聞き取り学習				◎
	被災マップ作り	○		○	◎
	被災者のための足湯実施		◎		○
	被災地訪問と被災者との交流		◎		○
	被災地への修学旅行・研修旅行で災害について学ぶ		◎		○
国際協力分野との連携					
	日本の防災教育プログラムなどを海外へ伝える	○	○	○	◎
	被災地へその国の言語でメッセージを送る		○		
	防災世界会議の企画・実施	○	○	○	◎
	災害経験・教訓を他国言語で発信	○	○	○	◎